

# 東京慈恵会医科大学

大学院医学研究科 看護学専攻



# 病気を診ずして病人を診よ

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」は、創設者高木兼寛が目指した「医学的力量のみならず、人間的力をも兼ね備えた医師の養成」を凝縮したものである。この精神は看護学教育にも「病気を看ずして病人を看よ」として取り入れられている。本学の研究と医療を通じた社会貢献もこの精神のもとで行われる。

## 大学院の目的・使命

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づく研究、教育、医療を推進できる高度な能力を涵養し、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉の向上に貢献することが本学大学院の使命である。

## 看護学専攻長メッセージ

臨床現場で蓄積された経験や疑問を、理論的に探究し、学術的知見として構築する—それが大学院における学びの本質です。本専攻では、看護実践に根ざした課題を自らの問いとして捉え直し、科学的根拠と専門的思考をもって解明・発信できる力を育成します。さらに、研究に携わる者が備えるべき根本的な理念として、「人間の尊厳と権利を尊重する倫理的視座」を重視しています。その理念を支えるものとして、大学院では、倫理的判断力と責任ある行動を伴う研究倫理の実践力の育成にも力を注いでいます。これは、看護専門職としての知的誠実さと社会的信頼を築く基盤でもあります。

本学の建学の精神を基盤とし、看護学専攻では、医療・看護の本質的課題を学術的に探究し、看護学の発展に寄与し得る教育者・研究者・管理者の育成を目指しています。経験に裏打ちされた実践を、次代の看護へとつなぐ知的挑戦を、ぜひ私たちと共に始めましょう。



看護学専攻長  
小谷野 康子

## ■大学院看護学専攻博士前期課程の目的

看護学専攻博士前期課程は、広い学術的基盤に立って人間を理解し、各専門分野における研究能力を獲得することにより、看護学および看護実践の発展に貢献できる実践者、指導者を育成することを目的とする。そのため、本課程には、「看護学研究論文コース」と「高度実践研究コース」を設ける。

### 博士前期課程 アドミッション ポリシー

1. 看護基礎教育を受け、専攻分野における基礎知識を有している者
2. 看護における課題意識を持ち、学修・研究する基礎的能力がある者
3. 将来、看護実践の場あるいは教育や研究の場で貢献する意志がある者

## ■大学院看護学専攻博士後期課程の目的

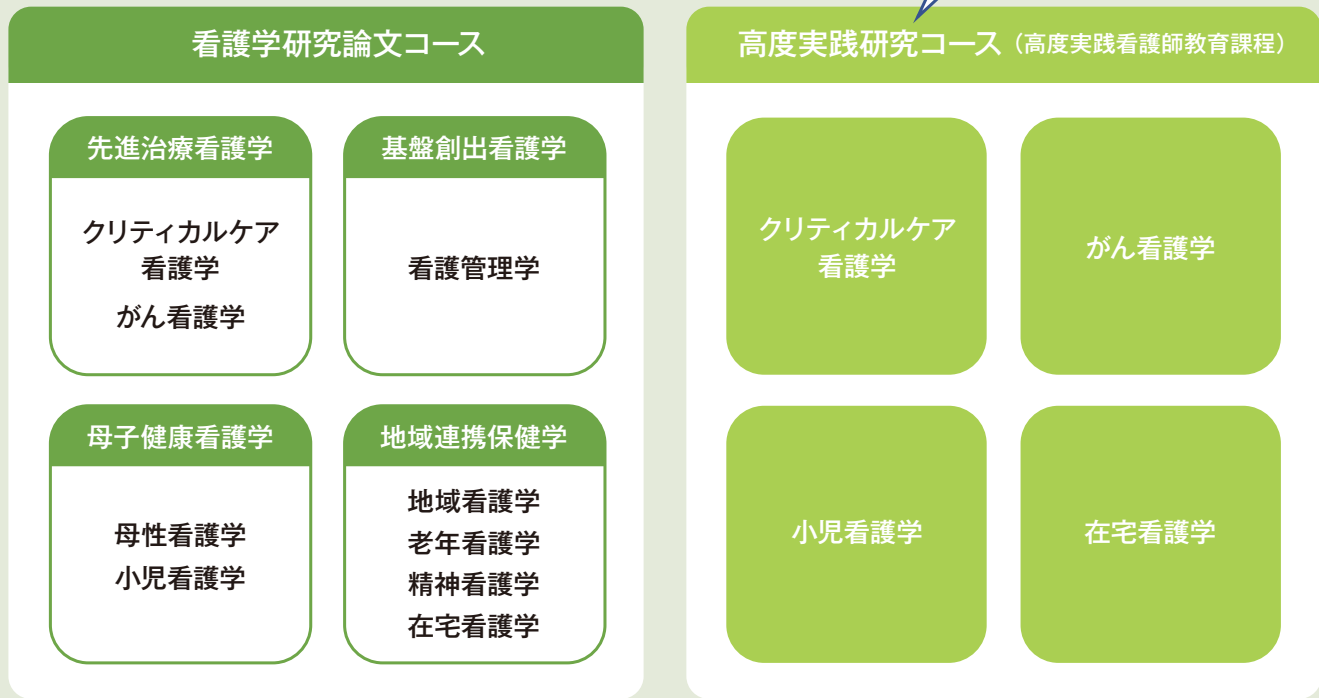
看護学専攻博士後期課程は、看護学分野における高度な研究能力と、人間中心の最善の看護を提供できる医療人を教育する能力を養い、その基礎となる豊かな学識を深めることにより、看護学および看護実践の発展に貢献できる優れた教育者、管理者、研究者を育成することを目的とする。

### 博士後期課程 アドミッション ポリシー

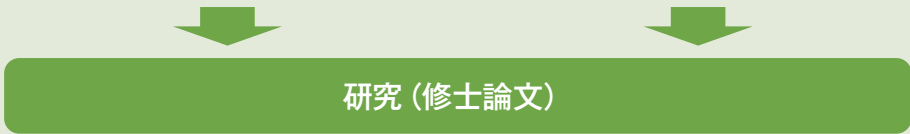
1. 専攻する看護学分野における専門知識を有している者
2. 看護における課題解決のための研究に取り組む能力がある者
3. 将来、看護学教育者、看護学研究者、看護管理者として社会に貢献する意志がある者

## 博士前期課程

専門看護師 (CNS) 認定審査の  
受験資格を得ることができます。



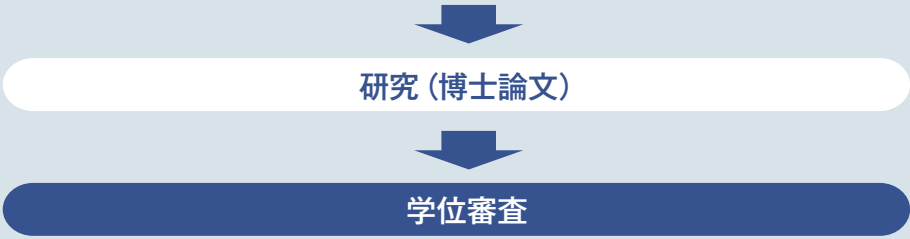
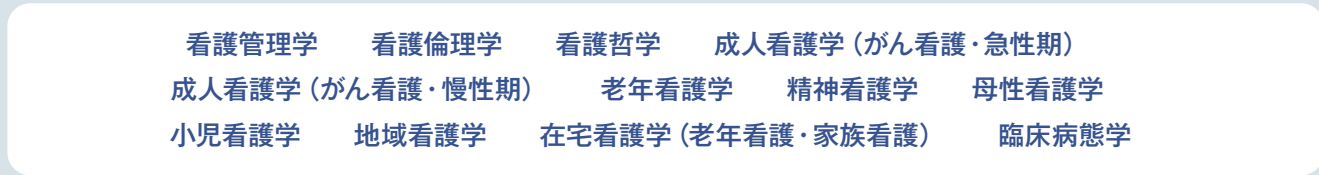
\*4分野で各専門領域のコースが開設されている



4分野「基盤創出看護学分野（看護管理学）」、「先進治療看護学分野（クリティカルケア看護学・がん看護学）」「母子健康看護学分野（母性看護学・小児看護学）」「地域連携保健学分野（地域看護学・老年看護学・精神看護学・在宅看護学）」があり、「看護学研究論文コース」と「高度実践研究コース」のどちらかを選択できます。「高度実践研究コース」は4つの専門領域が専門看護師教育課程として認定されています。

## 博士後期課程（博士）：実践開発看護学分野

### 専門領域



看護学専攻博士後期課程のカリキュラムは、教育理念、教育目標、ディプロマ・ポリシーに基づき、「共通科目（必修）」「共通科目（選択）」「専門科目（演習を含む）」「特別研究（必修）」で編成されています。

博士前期課程・博士後期課程とも原則、火・木・土に開講しています。また長期履修制度を取り入れています。

# 博士前期課程 教員一覧 (2026年度)

学位の名称 | 修士(看護学)

| 分野      | 専門領域          | 職位  | 教員名   | 研究テーマ   |
|---------|---------------|-----|-------|---|
| 先進治療看護学 | クリティカルケア看護学 ● | 教授  | 村田 洋章 | 集中治療後症候群 (post intensive care syndrome; PICS) に焦点を当てた看護研究・実写版VR技術を用いた看護シミュレーション教材の効果検証、クリティカルケア領域における睡眠研究 |
|         |               | 教授  | 佐藤 正美 | 直腸がん術後のLARSケアプログラムの開発、薬剤師との連携によるがん患者支援  |
|         |               | 講師  | 山本伊都子 | クリティカルケア、看護実践に対する困難、尺度開発  |
|         |               | 講師  | 浅川 翔子 | クリティカルケア、救急看護、異文化看護、外国人医療   |
|         | がん看護学 ●       | 教授  | 佐藤 正美 | 直腸がん術後の LARSケアプログラムの開発、薬剤師との連携によるがん患者支援   |
|         |               | 准教授 | 望月 留加 | がん薬物療法を受けるがん患者の症状マネジメント、がん患者の家族支援に関する研究、がん看護に携わる看護師の共感疲労と支援   |
| 基盤創出看護学 | 看護管理学         | 教授  | 田中 幸子 | 看護関係法の立法政策過程、占領期の看護改革、オーラルヒストリー、看護師の働き方、看護労働  |
|         |               | 准教授 | 金久保愛子 | がんサバイバーのヘルスリテラシー向上に関する看護支援、ヘルスコミュニケーション教育   |
|         |               | 准教授 | 佐竹 澄子 | 看護技術の検証(生体反応を指標とした効果検証、ポジショニングの技など)、脳神経看護に関する研究   |
| 母子健康看護学 | 母性看護学         | 教授  | 松永 佳子 | リプロダクティブヘルスの推進に向けた多職種連携支援モデルの構築、ICT・eラーニングを活用した専門職教育プログラムの開発、産後ケア・育児移行期における父親支援・夫婦間役割調整プログラムの開発           |
|         |               | 准教授 | 濱田真由美 | 授乳支援、社会規範、セクシュアリティ、質的研究方法論、看護哲学   |
|         | 小児看護学 ●       | 教授  | 永吉美智枝 | 小児がん患児の心理社会的支援・長期フォローアップ・学校生活支援ツールの開発、小児慢性疾患の成人移行期支援、親子の関係性支援スキルアップ研修の開発、網膜芽細胞腫の支持療法・緩和ケアの開発              |
|         |               | 教授  | 高橋 衣  | 子どもの権利擁護、子どもの権利擁護尺度、子どもの権利擁護実践プログラム、看護基礎教育における倫理教育  |
|         |               | 教授  | 大橋 十也 | 先天代謝異常症に関する研究   |
| 地域連携保健学 | 地域看護学         | 教授  | 嶋澤 順子 | 家族を介護する精神障害者の介護体験、保健師・訪問看護師による在宅精神障害者支援   |
|         |               | 准教授 | 清水由美子 | 地域高齢者の健康づくり・介護予防、高齢者施設における要介護高齢透析患者の受け入れ態勢  |
|         | 老年看護学         | 教授  | 梶井 文子 | 地域在住の認知症高齢者と家族の支援方法、地域での認知症支援システムの開発、多様な高齢者のエンドオブライフケア、医療機関から在宅への移行のための高齢者の栄養管理と多職種連携                     |
|         | 精神看護学         | 教授  | 金子真理子 | 医療従事者を支える心理教育アプリとケアシステムの開発、サイコオンコロジー、認知行動療法、マインドフルネス、リエゾン精神看護   |
|         |               | 教授  | 小谷野康子 | 地域住民のセルフ・コンパッション向上に向けた介入、弁証法的行動療法スキルトレーニングの効果、精神看護学における倫理教育、患者理解を促すVR教材の開発                                |
|         |               | 准教授 | 松浦 彩美 | 看護職のメンタルヘルス、アサーション、瞑想、マインドフルネス、メンタルヘルス支援プログラムの開発  |
|         | 在宅看護学 ●       | 教授  | 北 素子  | 急性期病院に入院する認知症高齢者の入退院支援における家族参加要介護高齢者の在宅介護プロセス、介護家族の生活安定尺度、家族看護  |
|         |               | 准教授 | 岩田 尚子 | 高齢者の訪問看護利用、訪問看護と外来看護の連携、移行期支援、学士課程の在宅看護学実習の実習指導   |
| 臨床病態学   |               | 教授  | 大橋 十也 | 先天代謝異常症に関する研究   |
|         |               | 教授  | 二ノ宮邦稔 | 病態生理学的変化の解釈、臓器別エビデンスに基づく知識、技術の習得  |

●の専門領域は専門看護師教育課程として認定されているコースもあります

## 博士後期課程 教員一覧 (2026年度)

学位の名称 | 博士(看護学)

| 専門領域                 | 職位   | 教員名   | 研究テーマ   |
|----------------------|------|-------|---|
| 看護管理学                | 教授 * | 田中 幸子 | 看護関係法の立法政策過程、占領期の看護改革、オーラルヒストリー、看護師の働き方、看護労働  |
| 看護倫理学                | 教授 * | 高橋 衣  | 子どもの権利擁護、子どもの権利擁護尺度、子どもの権利擁護実践プログラム、看護基礎教育における倫理教育  |
| 看護哲学                 | 准教授  | 濱田真由美 | 授乳支援、社会規範、セクシュアリティ、質的研究方法論、看護哲学   |
| 成人看護学<br>(がん看護・急性期)  | 教授 * | 佐藤 正美 | 直腸がん術後のLARSケアプログラムの開発、薬剤師との連携によるがん患者支援  |
| 成人看護学<br>(がん看護・慢性期)  | 准教授  | 望月 留加 | がん薬物療法を受けるがん患者の症状マネジメント、がん患者の家族支援に関する研究、がん看護に携わる看護師の共感疲労と支援                                     |
| 老年看護学                | 教授   | 梶井 文子 | 地域在住の認知症高齢者と家族の支援方法、地域での認知症支援システムの開発、多様な高齢者のエンドオブライフケア、医療機関から在宅への移行のための高齢者の栄養管理と多職種連携           |
| 精神看護学                | 教授 * | 小谷野康子 | 地域住民のセルフ・コンパッション向上に向けた介入、弁証法的行動療法スキルトレーニングの効果、精神看護学における倫理教育、患者理解を促すVR教材の開発                      |
| 母性看護学                | 教授   | 松永 佳子 | リプロダクティブヘルスの推進に向けた多職種連携支援モデルの構築、ICT・eラーニングを活用した専門職教育プログラムの開発、産後ケア・育児移行期における父親支援・夫婦間役割調整プログラムの開発 |
|                      | 准教授  | 濱田真由美 | 授乳支援、社会規範、セクシュアリティ、質的研究方法論、看護哲学   |
| 小児看護学                | 教授   | 永吉美智枝 | 小児がん患児の心理社会的支援・長期フォローアップ・学校生活支援ツールの開発、小児慢性疾患の成人移行期支援、親子の関係性支援スキルアップ研修の開発、網膜芽細胞腫の支持療法・緩和ケアの開発    |
|                      | 教授 * | 高橋 衣  | 子どもの権利擁護、子どもの権利擁護尺度、子どもの権利擁護実践プログラム、看護基礎教育における倫理教育  |
| 地域看護学                | 教授   | 嶋澤 順子 | 家族を介護する精神障害者の介護体験、保健師・訪問看護師による在宅精神障害者支援   |
| 在宅看護学<br>(老年看護・家族看護) | 教授 * | 北 素子  | 急性期病院に入院する認知症高齢者の入退院支援における家族参加要介護高齢者の在宅介護プロセス、介護家族の生活安定尺度、家族看護                                  |
| 臨床病態学                | 教授 * | 大橋 十也 | 先天代謝異常症に関する研究   |
|                      | 教授 * | 二ノ宮邦稔 | 運動器に関する力学的研究  |

ただし、2027年度入試(2026年度に実施する入試)では、\*の教員による研究指導の募集は行いません



# 2027年度(令和9年度)看護学専攻入学者選抜試験内容

## 【博士前期課程】

|      |  |
|------|--|
| 入学定員 | 10名(各分野の定員は定めない)   |
| 試験日程 | 出願資格認定審査日:2026年8月21日(金) *該当者のみ<br>試験日:2026年9月12日(土)  |
| 受験料  | 30,000円  |
| 出願資格 | 下記の1.あるいは2.に該当する者<br>1.看護系大学を卒業または卒業見込みの者<br>2.1.以外の者で、下記の(1)と(2)を満たす者<br>(1)学士および学士に相当する者<br>学士を有していない者に対しては、出願試験認定審査を行う。但し、本学の認める資格取得者は出願試験認定審査を免除する。詳細は募集要項で確認すること。<br>(2)看護師の免許を有する者 |
| 選抜方法 | 筆記試験:看護専門科目(「共通問題」と「専攻する領域の問題」) / 英語 / 面接試験 / 書類審査   |
| 修業年限 | 標準年限2年。なお、長期履修制度の利用も可能である。   |

●学費 [入学金] 200,000円 [授業料] 800,000円(年額)

※長期履修制度の利用者は2年間の授業料で3年間学修することができる。  
本学の看護学科・看護専門学校卒業生および本学勤務者(看護専門学校・附属病院を含む)は、入学納入金の優遇制度がある。

## 【博士後期課程】

|      |  |
|------|--|
| 入学定員 | 3名(各分野の定員は定めない)  |
| 試験日程 | 2026年9月12日(土)  |
| 受験料  | 30,000円  |
| 出願資格 | 下記のいずれかに該当した上で、看護師の免許を有し、看護学および看護実践の場における課題を解決するための、より高度な研究力および教育力、さらに管理力の修得を目指す者とする。<br>1.修士の学位や専門職学位を有する者、および入学年3月までに学位取得見込みの者(学校教育法 第102条第1項)他<br>詳細は募集要項で確認すること。 |
| 選抜方法 | 筆記試験:看護専門科目 / 英語 / 面接試験 / 書類審査   |
| 修業年限 | 標準年限3年。なお、長期履修制度の利用も可能である。   |

●学費 [入学金] 200,000円 [授業料] 600,000円(年額)

※長期履修制度の利用者は3年間の授業料で4年間学修することができる。  
本学の看護学科・看護専門学校卒業生および本学勤務者(看護専門学校・附属病院を含む)は、入学納入金の優遇制度がある。



東京慈恵会医科大学  
大学院医学研究科 看護学専攻

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号  
TEL. 03-3433-1111(大代表) URL. <http://www.jikei.ac.jp/>

